

豚の改良増殖目標（現行）

農林水産省

## 豚

### (1) 改良目標

食料自給率の向上、自然循環機能の維持増進に配慮しつつ、生産コストの低減と消費者ニーズに合った良質で斉一性の高い豚肉生産に資するため、純粋種の遺伝的能力の改良の推進と併せて適正な交雑利用と飼養管理の改善を図ることとし、能力等に関する目標を次のとおりとする。

#### ① 能力

ア 純粋種豚の繁殖能力及び産肉能力の向上に努めるものとする。

純粋種豚の能力に関する目標数値（全国平均）

	品 種	繁 殖 能 力		産 肉 能 力			
		育 成 頭 数	子 豚 総 体 重	1 日 平 均 増 体 量	飼 料 要 求 率	背 腰 (ロース) の 太 さ	背 脂 肪 層 の 厚 さ
		頭	kg	g		cm <sup>2</sup>	cm
現	パークシャー	8.0	31	720	3.5	31	2.1
	ランドレース	9.4	39	810	3.3	36	1.7
在	大ヨークシャー	9.6	41	860	3.2	35	1.9
	デュロック	8.8	34	850	3.2	38	1.8
目 標 22 年 度	パークシャー	9.0	37	750	3.3	33	2.0
	ランドレース	10.5	43	850	3.1	36	1.7
	大ヨークシャー	11.0	46	870	3.1	36	1.7
	デュロック	9.5	40	870	3.1	40	1.6

- 注：1) 繁殖能力の数値は、分娩後2週齢時の母豚1頭当たりのものである。  
 2) 産肉能力の数値は、雄豚の産肉能力検定（直接検定）のものである。  
 3) 1日平均増体量及び飼料要求率の数値は、体重30kgから105kgまでの間のものである。  
 4) 背腰（ロース）の太さ及び背脂肪層の厚さは、体重105kg到達時における体長2分の1部位のものである。

イ 肥育もと豚の効率的な生産を図るため、強健で耐用年数が長く、連産性等繁殖能力の優れた母豚の生産に努めるものとする。

肥育もと豚生産用母豚の能力に関する目標数値（全国平均）

	1腹当たり 生産頭数	育成率	年間分娩回数	1母豚当たり 年間離乳頭数
現在	頭 9.9	% 91	回 2.2	頭 19.8
目標 (22年度)	10.8	93	2.3	23.1

注：育成率は、離乳時のものである。

- ウ 脂肪量が適度な良質で斉一性の高い豚肉の生産を図るため、品種等の特性に応じた効率的な肥育により適正な日齢及び体重での出荷に努めるものとする。

肥育豚の能力に関する目標数値（全国平均）

	出荷日齢	出荷体重	飼料要求率
現在	日 200	kg 108	3.0
目標 (22年度)	172	112	2.9

② 体型

能力の向上を支えるため、強健で肢蹄が強く、発育に応じて体各部の均称に優れ、飼養管理の容易なものにする。

③ 改良手法

ア 能力検定の実施と評価に基づき遺伝的能力の高い種豚の選抜及び利用を図るとともに、多様な特性を有する育種資源の確保に努めるものとする。

イ 高品質な豚肉の生産を行うため、能力及び斉一性の高い系統の造成を図るとともに、適正な交雑利用の推進に努めるものとする。

ウ 種豚の効率的な改良に資するため、人工授精の普及定着及びDNA解析等新技術の利用に努めるものとする。

④ その他

ア 防疫等衛生管理の徹底により、改良の推進及び生産性の向上に努めるものとする。

イ 食品残さ等未利用資源の利用を促進するため、飼料化のための低コスト技術の開発やその普及定着に努めるものとする。

ウ 畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上等に努めるとともに、家畜排せつ物の適正な処理とその利用を推進する。

(2) 増殖目標

豚肉の需要動向に留意した生産を行うことを旨として、総頭数は929万頭とする。

過去の改良増殖目標の概要（豚）

	第1次 (昭和37年公表、46年度目標)	第2次 (昭和44年公表、52年度目標)	第3次 (昭和50年公表、60年度目標)	第4次 (昭和55年公表、平成2年度目標)	第5次 (昭和63年公表、平成7年度目標)	第6次 (平成8年公表、平成17年度目標)	第7次 (平成12年公表、平成22年度目標)
対象品種	中ヨークシャー(Y)、パークシャー(B)	中ヨークシャー(Y)、パークシャー(B)、ランドレース(L)	中ヨークシャー(Y)、パークシャー(B)、ランドレース(L)、大ヨークシャー(W)、ハンブシャー(H)	パークシャー(B)、ランドレース(L)、大ヨークシャー(W)、ハンブシャー(H)、デュロック(D)	パークシャー(B)、ランドレース(L)、大ヨークシャー(W)、ハンブシャー(H)、デュロック(D)、母猪、肉豚	パークシャー(B)、ランドレース(L)、大ヨークシャー(W)、ハンブシャー(H)、デュロック(D)、母猪、肉豚	パークシャー(B)、ランドレース(L)、大ヨークシャー(W)、デュロック(D)、母猪、肉豚
能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>産肉能力の向上 飼料要求率 4.0 → 3.7 肥育所要日数 230 → 240 → 210日 枝肉歩留 65 ~ 67 → 70% 背脂肪の厚さ 3.0 → 2.6 cm</li> <li>繁殖能力の向上 産子数 Y 9 → 10頭 B 7 → 8頭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産肉能力の向上(ランドレース) 1日平均増体量 628 → 640g 飼料要求率 3.6 → 3.4 ロースの長さ 70 → 72 cm ロースの太さ 18 → 20 cm ハムの割合 32 → 33% 背脂肪の厚さ 2.7 → 2.6 cm</li> <li>肉質の改善</li> <li>繁殖能力の向上 3週時育成頭数 9 → 10頭 3週時総体重 52 → 62kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産肉能力の向上(ランドレース) 1日平均増体量 700 → 760g 飼料要求率 3.5 → 3.3 ロースの長さ 70 → 72 cm ロースの太さ 18 → 20 cm ハムの割合 32.8 → 33% 背脂肪の厚さ 2.7 → 2.6 cm</li> <li>肉質の改善</li> <li>繁殖能力の向上 3週時育成頭数 9 → 10頭 3週時総体重 52.5 → 62kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産肉能力の向上(ランドレース) 1日平均増体量 740 → 790g 飼料要求率 3.5 → 3.2 ロースの長さ 71 → 72 cm ロースの太さ 18 → 19 cm ハムの割合 33 → 33% 背脂肪の厚さ 2.6 → 2.4 cm</li> <li>品質の向上</li> <li>繁殖能力の向上 2週時育成頭数 9 → 10頭 2週時総体重 39 → 44kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎純粋種豚の能力の向上(ランドレース)</li> <li>産肉能力の向上 1日平均増体量 690 → 740g 飼料要求率 3.3 → 3.1 背腰の太さ 31 → 33 cm 背脂肪の厚さ 1.5 → 1.4 cm</li> <li>繁殖能力 育成頭数 9 → 10頭 子豚総体重 36 → 43kg</li> <li>肥育もと豚生産用母猪の能力の向上 生産頭数 10.0 → 10.5頭 育成率 88 → 90% 年間分娩回数 2.0 → 2.1回 1腹当たり年間離乳頭数 17.5 → 20.0頭</li> <li>肥育豚の能力の向上 出荷日齢 205 → 190日 出荷体重 107 → 107kg 飼料要求率 3.3 → 3.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎純粋種豚の能力の向上(ランドレース)</li> <li>産肉能力の向上 1日平均増体量 790 → 830g 飼料要求率 3.4 → 3.1 背腰の太さ 33 → 34 cm 背脂肪の厚さ 1.9 → 1.7 cm</li> <li>繁殖能力 育成頭数 9.5 → 10.5頭 子豚総体重 38 → 43kg</li> <li>肥育もと豚生産用母猪の能力の向上 生産頭数 10.3 → 10.8頭 育成率 89 → 91% 年間分娩回数 2.0 → 2.1回 1腹当たり年間離乳頭数 18.2 → 20.6頭</li> <li>肥育豚の能力の向上 出荷日齢 205 → 172日 出荷体重 108 → 108kg 飼料要求率 3.1 → 3.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎純粋種豚の能力の向上(ランドレース)</li> <li>産肉能力の向上 1日平均増体量 810 → 850g 飼料要求率 3.3 → 3.1 背腰の太さは現状維持 36 cm 背脂肪の厚さは現状維持 1.7 cm</li> <li>繁殖能力 育成頭数 9.4 → 10.5頭 子豚総体重 39 → 43kg</li> <li>肥育もと豚生産用母猪の能力の向上 生産頭数 9.9 → 10.8頭 育成率 91 → 93% 年間分娩回数 2.2 → 2.3回 1腹当たり年間離乳頭数 19.8 → 23.1頭</li> <li>肥育豚の能力の向上 出荷日齢 200 → 172日 出荷体重 108 → 112kg 飼料要求率 3.0 → 2.9</li> </ul>
体型	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の伸長、後躯の充実、頭部を軽く</li> <li>体重の増加(大型化)(B 200 → 220kg)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>背腰及びハム割合の増加</li> <li>体の伸長、後躯の充実</li> <li>Y、Bは頭部を軽く</li> <li>Lは肢蹄を強く</li> <li>体重(8ヶ月齢時 116kg)(ランドレース)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の伸長、後躯の充実(ランドレース) 体長 8ヶ月齢時 139 cm 体高 8ヶ月齢時 69 cm</li> <li>強健で飼いがやすく、耐用年数長く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体各部の均称性の向上(ランドレース) 体長 8ヶ月齢時 133-145 cm 体高 8ヶ月齢時 66-73 cm 体長/体高 8ヶ月齢時 50%</li> <li>強健で肢蹄が強く飼養管理が容易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種豚としての資質の向上、発育に応じた体各部の均称性の向上</li> <li>強健で肢蹄が強く飼養管理が容易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種豚としての資質の向上、発育に応じた体各部の均称性の向上</li> <li>強健で肢蹄が強く飼養管理が容易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種豚としての資質の向上、発育に応じた体各部の均称性の向上</li> <li>強健で肢蹄が強く飼養管理が容易</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>L等外国産品種の利用</li> <li>交配種の活用推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>純粋種の確保、系統造成が必要</li> <li>適正な交配による交雑種の活用</li> <li>W、H等についても配慮</li> <li>飼養管理技術の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>純粋種の確保、系統造成が必要</li> <li>適正な交配による交雑種の活用</li> <li>Dについても配慮</li> <li>飼養管理の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>純粋種の確保、系統造成が必要</li> <li>飼養管理の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>凍結精液等新技術の利用</li> <li>系統造成と組織的な利用</li> <li>高品質豚肉及び加工品の需要に対応した肉豚の生産</li> <li>豚肉の需要動向に即した飼養頭数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNA解析等新技術の利用</li> <li>系統造成と組織的な利用</li> <li>高品質豚肉及び加工品の需要に対応した肉豚の生産</li> <li>衛生管理の徹底</li> <li>畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上等、周辺環境への配慮</li> <li>豚肉の需要動向に即した飼養頭数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工授精の普及定着とDNA解析等新技術の利用</li> <li>系統造成と適正な交雑利用の推進による高品質豚肉の生産</li> <li>衛生管理の徹底</li> <li>食品残さ等未利用資源の利用、畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上等、家畜排せつ物の適正処理</li> <li>豚肉の需要動向に即した飼養頭数</li> </ul>